

「これは、江戸の風景かな」

「はい、あたご山から江戸の町を見たところですよ。」

「じつにみごとな絵だ。木々の葉や遠くの屋根のひとつひとつにいたるまで、ていねいにえがかれている。しかも広々とした大きさを感じさせる絵だ。いったい、だれがかいたのかな」

「この近くに住む、永田善吉(田善のこと)という絵師しでございます。なんなら、よんでまいりましょうか。」

定信は、この絵師の力におどろきました。「きつと自分の仕事のうえで役に立つ人物だ」と思いました。

こうして田善は、松平定信にみとめられ、江戸の松平やしきによびだされることになりました。

江戸は、たくさんの人でごったがえしていました。定信は、江戸についてまもない田善にオランダの本や、西洋の馬の版画はんがを見せ、